



いのちの目便り

2018.10.4
いのち推進
プロジェクト
No. 5

「じよ 恕の心」

2学期の始業式に、校長先生より「いのちの日」の講話がありました。

春秋戦国時代の中国の思想家である孔子とその弟子とのやり取りをまとめた『論語』のある一節のお話をさせていただきました。



子貢問曰。有一言而可以終身行之者乎。
子曰。其恕乎。己所不欲。勿施於人。

【書き下し文】

子貢、問いて曰わく、一言にして以て終身之を行ふべき者有りや。
子曰わく、其れ恕か。己の欲せざる所は、人に施すこと勿れ。

【現代語訳】

子貢(弟子)がたずねた。

「ただ一言で一生涯を守れることがありますか。」

先師(孔子)が答えた。

「それは思いやりかな。

自分にされたくないことを人に対して行わない というのがそれだ。」

『論語 衛霊公第十五 23』より



「己の欲せざる所は、人に施すこと勿れ」という言葉には、
「自分がされて嫌なことは、人に対してしてはいけない」という意味があります。
孔子は 恕の心 = 思いやりの心 を大切にしていたといわれています。
みなさんも学校で生活していく中で、思いやりの心を大切にしたいと思います。

～生徒のみなさんの感想より～

嫌がることをする人は、相手がどう思っているかが分からなくて、なにも思っていないだろうと思ってしているのだと思います。私もなぜそんなことをしてしまうのだろうと不思議だけど、相手と少し話してみても、人はそれぞれ違うからどういう人なのかも考えることが大事だと思いました。(1年1組 青井優音さん)

人に嫌なことをするとき、私はたぶん後のことを考えていないと思う。だから、する前に後のことを考えれば、人から嫌なことはしないと思う。(1年2組 淡江 萌さん)

校長先生のお話を聞いて、「心がなければ聞いてないし、心がなければ目も見えない」ということがわかったので、人が話している時は、ちゃんと聞いたり見たりしたいです。(2年4組 堀 浩明さん)

校長先生のお話を聞いて、「恕」という思いやりの心を持つことが大切だと感じた。人が嫌がることをしてはいけないのにしてしまうのは周りの流れにのまれて軽い気持ちでしてしまうからではないかと考えた。(2年4組 田中三琴さん)

孔子の話の中の「恕の心」は、「自分がされて嫌な事は人にしない」ことで、その言葉を大切にすれば、「いじめ」はなくなると思った。(2年5組 後藤宗一郎さん)

私は、2学期思いやりの心を持って生活していきたい。「恕」という漢字はその意味を示しているということが、とても心に響きました。これからたくさんの活動がありとても大変ですが、恕の心を常に持って頑張っていきたい。(2年5組 大豆田結菜さん)

自分がされて嫌な事を他人にしてしまうのは、相手より自分を上に見てしまうからだと思う。そうしないように人の気持ちを考えたり、相手の目線で考えたりすることが大事だと思った。(3年4組 青木佑真さん)

自分がされて嫌な事をしてしまうのは悪いことだとわかっているけど、人の気持ちを考えるということを忘れているからだと思う。自分が得する事だけを考えず、周りの人のことも常に考える必要があると思った。(3年4組 熊坂藍音さん)

相手を思いやり、認め合うことで嫌なことはしなくなると思います。また、自分を知ることと相手を知ることが等しいのではないかと思います。(3年5組 庄司玲音さん)